※令和４年度以降入学生用

学校番号	１２０４

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	（学）日本史探訪Ⅰ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	高等学校　日本史探究　（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

グローバル化が進むこれからの時代を生きる上で世界に対する理解はとても重要になります。世界を理解するにはまず自分たちが生きる日本について理解しなければならず、日本を理解するには、日本の歴史を理解することが必要不可欠です。進学や就職の際、志望者は自分を理解してもらうために履歴書を出します。歴史はいわば日本という国の履歴書です。世界を理解するため、自分の国や自分を理解してもらうため、しっかりと歴史を勉強しましょう。学習していくうえで、教科書だけで勉強しようとは考えないでください。歴史学習の教材は私たちの身近に満ち満ちています。
テレビやネットのニュース、地域の風習や建造物など、ありとあらゆるものが日本の歴史と深く関わっています。そうしたものに常に関心も持つことが大切です。また、周囲のあらゆるものは自分の毎日を支えてくれてもいます。それを努力して自覚し、あらゆる事物に感謝の念を抱き、それが強まれば、関心も高まり、学習意欲も上がっていきます。そこから教科書や、歴史に関する書籍を読めるようになれば、おのずと歴史に関する教養が深まり、学力がついてくることでしょう。

2　学習の到達目標

１．古代から中世にいたる日本史の大きな流れをとらえる。
２．一人でも多くの歴史に名を残した人物について史料から学び理解を深める。
３．歴史的事象に対して、その背景や時代に与えた影響に考えをめぐらせて、理解を深めて、その内容を文章や言葉で適切に表現する。
４．自ら主体的に資料文献にあたり、また史跡等に足を運ぶ積極性や、歴史の教訓を生かし、主体的な公民としての責任を自覚した言動をとれるようになる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・図版や年表等の様々な資料を活用して，それぞれの時代の政治・経済・社会・文化等の特徴について理解を深められるか。 ・日本の歴史の流れを世界の歴史や現代日本と関連づけながら理解しているか。	・日本史の授業で学習したことをもとに，現代に起こる様々な人類の課題を，多角的・多面的に考察できるか。 ・日本史上の各事象や人物の事績から、今後の社会情勢について考察し、私見を文章化できるか。	・積極的に学んだことをノートなどに記録し、自分の見解を文章化し、考えをふかめることができるようになる。 ・時事問題に関心を持ち、それを考える材料として歴史学習を自ら活用できる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	原子・古代の日本と東アジア	1. 日本文化の黎明 2. ヤマト政権と律令国家の形成 3. 律令国家の変容	a:原子・古代に関する諸資料から時代の特徴を読み解く。 b: 原子・古代の時代的特徴について理解した内容を文章化する。 c: 古代の政治構造や社会の諸事象についての理解をノートやプリントに図や表、文章で記入し理解を深めるための工夫を施す。	・定期考査 ・授業プリント	・定期考査 ・課題提出 ・授業プリント	・課題提出 ・授業プリント
後期	中世の日本と世界	1. 中世への転換 2. 鎌倉幕府の展開 3. 室町幕府の展開	a:中世に関する諸資料から時代の特徴を読み解く。 b:中世の時代的特徴について理解した内容を文章化する。 c:中世の政治構造や社会の諸事象についての理解をノートやプリントに図や表、文章で記入し理解を深めるための工夫を施す。	・定期考査 ・授業プリント	・定期考査 ・課題提出 ・授業プリント	・課題提出 ・授業プリント

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度